第１回　印旛沼堤防調査委員会　議事要旨

■日　時：令和８年１０月３０日（金）
　　現地確認　１５時１５分～
　　意見交換　１６時３０分～
■場　所：成田土木事務所　１階会議室
■出席委員：髙橋章浩　　東京科学大学 教授
　　安田　進　　東京電機大学 名誉教授
　　二瓶泰雄　　東京理科大学　教授
　　瀬﨑智之　　国土交通省国土技術政策総合研究所　流域マネジメント研究官
　　石原雅規　　国立研究開発法人土木研究所　上席研究員

【現地確認】
○北印旛沼船形干拓
・堤防裏のり尻側の部分を北側から徒歩により確認しながら、決壊箇所へ向かった。
・堤防決壊箇所では、仮締切堤防の上から沼側の状況を確認するとともに、荒締切の上から堤内地側の状況を確認した。
・堤防決壊後の決壊断面の状況、基礎地盤の状況等について写真により確認を行った。
○角川集水路
・左岸側堤防天端を徒歩により、決壊箇所へ向かった。
・左岸側堤防天端から、右岸側の状況、印旛沼側の状況について確認を行った。
・堤防決壊後の決壊箇所、堤防天端等の状況について写真により確認した。

【意見交換】
○以下について、事務局が説明。
・「１．流域の地形・地質概要」として、「流域概要」「利根川東遷」「印旛沼開発事業」「印旛沼の水位管理」「地質概要」を説明。
・「２．台風２５号における雨量・水位状況」として、「気象概況」「県内の雨量状況」「佐倉観測地点の雨量状況」「予備排水等」「水位状況」を説明。
・「３．堤防の被災状況と緊急復旧状況」として、「北印旛沼」「角川集水路」「長門川」の被災状況と緊急復旧状況を説明。
○「４．現地調査結果」について、９月２８日に行った現地調査結果について土木研究所から説明。

〇各委員からの主な意見。

・印旛沼開発事業における堤防整備内容を可能な限り確認すること。

・決壊箇所の断面形状や水位などをよく確認し解析を行う必要がある。

・堤体材料や基礎地盤の状況をよく確認する必要がある。

・地質調査の位置や調査項目について、意見をいただいた。

・噴砂の状況も確認する必要がある。

・過去の被災履歴を確認すること。

〇今後の進め方について、以下のとおり確認した。

・年内を目途に、堤防決壊箇所の破堤メカニズムを解明し、堤防復旧工法を決定する予定。

・さらに、今年度末を目途に、堤防決壊箇所以外についても、地質状況等を検証し、必要な対策の検討を行う予定。